



「地域の誇りを胸に、町民の皆さんと共に歩いてほしい」

原作者
松根 透さん(合志市)

長洲町には「ふれ売り師」と呼ばれる人がいることは前から知っていました。ある日、テレビでふれ売り師と呼ばれる人は全国で長洲町に1人だけということ、長洲町が全国で有数の金魚の郷であることを知りました。これは長洲町にとって誇りであると感じました。そこからふれきんちゃんという名前を考えました。

製作は本当に苦労しました。100枚以上スケッチしたことを覚えています。その中で生まれたふれきんちゃんが、今こうして町内外のいろんな場所を訪れていることを本当にうれしく思います。

私は生みの親で、育ての親は町民の皆さんです。私1人の力ではなく、皆さんに支えられて今のふれきんちゃんがあります。町外から見ても、金魚や産業など、長洲町は魅力あ「ふれ」る町です。これからも、ふれきんちゃんを活用しながら、皆さんと一緒にその魅力を生かしてもらえたらと思います。



「ふれ売り師という個性を生かしてほしい」

日本でただ一人のふれ売り師
浦島 義弘さん(磯町)

ふれきんちゃんのモデルはふれ売り師です。その人気が出ればそのPRにもつながります。ふれきんちゃんを通じて金魚のPRにもつながってくれたらうれしいですね。



てきました。県外、町外にも積極的に出向き、町のPRに努め、イベントを通じて、ふれきんちゃんは多くの人とつながってきました。また、ピンバツジヤボールペン、キーホルダーなど、ふれきんちゃん関連グッズも多く開発・販売されています。

ゆるキャラ

ふれきんちゃんなどのご当地マスコットキャラクターは一般的に「ゆるキャラ(ゆるいマスコットキャラクターの略)」と呼ばれています。ご当地ならではのキャラク

ター性でゆるキャラは全国に広がっており、今では900体以上が全国にいていわれています。一般的にゆるキャラのメリットには、地域のPR効果向上、地元知名度の向上、ゆるキャラを使ったグッズ販売など産業の活性化、ゆるキャラを通じた郷土愛着度の向上などが挙げられます。

くまモンが全国で1位となり、大きな話題となりました。出場者は年々増加し、昨年行われた同グランプリでは865体がエントリー。ふれきんちゃんは全体の89位という結果でした。同グランプリはゆるキャラ日本一を決める大会として注目度も高く、上位に入賞すると、認知度の向上や町のさらなる情報発信にもつながります。くまモンはそこから全国へ知名度を広げ、県のPRや経済効果に影響を与えたといわれています。

ゆるキャラグランプリ(同実行委員会主催)とは、「ゆるキャラで地域・会社・日本を元気に」をテーマに2010年から行われている、ゆるキャラ日本一を決めるイベントです。2011年には熊本県PRマスコットキャラクターである

同グランプリに上位入賞すること、町のPRになるとともに、観光や産業などさまざまな分野で効果をもたらす可能性を秘めています。



「青のハッピーに赤い顔がとても魅力的」

ふれきんちゃん応援ガールズ「きんぎょ姫」リーダー 宮野 幸子さん(東荒神)

赤くて大きくて、最初はその大きさにびっくりしましたが、今ではとてもかわいらしい存在です。応援ガールズとして、その魅力を皆さんに伝えて応援していけるようこれからも頑張ります。

ふれきんちゃん誕生まで

マスコットキャラクターの製作は商工観光PRの一環として24年からスタートしました。デザインを一般公募し、選考会を経て、330点の応募作品の中から「ふれきんちゃん」は選ばれました。その後、デザインを基に製作され、昨年8月、のしろ祭りでデビューしました。

ふれきんちゃんの名前には由来があります。「ふれ」は、金魚をふれ売って販売していたふれ売り師の名前から、「きん」は町特産の「金魚」から付けられています。また、「ふれ」には、「ふれあい」「希望あふれる」などの意味も込められています。

ふれきんちゃんの頭は大きく、横約1m、奥行き約90cmもあります。額にはウロコが描かれ、目は大

きく飛び出し、その瞳は誰よりも先に、明るい未来を見据えています。背中には金魚鉢をぶら下げたてんびん棒をかつぎ、まるで当時のふれ売り師のようです。

人とふれあい続けた1年間

ふれきんちゃんはこれまで70ものイベントに参加。子どもからお年寄りまで、多くの人とふれあっ



これからも
ふれきんちゃんと

町マスコットキャラクター「ふれきんちゃん」が誕生して1年。これまでさまざまなイベントなどに出演し、町をPRしてきました。そこで、今号では誕生して1年を迎えたふれきんちゃんの魅力、活用することで見えてくる効果に触れながら、これからも歩き続けるふれきんちゃんにスポットを当てます。

